

新・道の駅

住民巻き込み士幌PR



建設が進められている新・道の駅ピア21しほろの外観



建物内部のイメージ図。カラマツをふんだんに使ったマンサード屋根が来場者に自然のぬくもりと開放感を与える

まちむら 特報部

整備にアイディア募集

新道の駅は、国道274号の別線ルートと国道241号の交点に移転。地域創造発信拠点施設と位置付けて、町が建設を進めている。昨年1月、国土交通省から管内で唯一となる「重点道の駅」に選定された。

敷地面積は2万1914平方メートル。駐車場は182台分(小型車148台、大型車11台)、自動自転車20台、身障者用3台を用意。電気自動車(EV)用の充電器も1台ある。

面積は2倍に

建物は木造平屋建て(一部2階)、延べ床面積は現施設の倍となる940.98平方メートル。内部には道内産のカラマツ材をふんだんに使用し、天井高を大きくとしたマンサード屋根にし、広々と自然のぬくもりを感じられるようになっている。

建物は3月中旬に完成、緑地帯は来年度の整備を予定している。建物の周囲には芝生を整備する計画だ。建物南側の緑地帯3655平方メートルは多目的広場とし、各種イベントを展開する。

施設内にはレストラン、カフェ、売店を配置。これらを運営する「at LOCAL」が町内で設立された。同社の堀田悠希社長は「士幌町で『農村ユートピア構想』を進めた太田寛一」の思いを受け継ぎたいとし、カフェの名称を「CAFÉ寛一」とした。

同社は道の駅の整備に住民が参加するよう、カフェのメインロゴ、売店で扱うオリジナル商品のイラスト、レストランの名称を町民対象に公募。ロゴと絵は士幌中央の生徒の絵が採用され、レストランは「にじいろ食堂」に決まった。レストランは旧店舗(昨年12月閉店)のメニューを受け継ぎ、しほろ牛のステーキやハンバーグなどを提供する。

【士幌】「新・道の駅ピア21しほろ」(士幌西2線134ノ1)が4月23日にオープンする。新施設には「土幌(賢人)の1人」で、農業の発展に多大な貢献をした太田寛一氏(故人、元JA士幌町組合長)をモチーフにしたカフェ、地域の農畜産物を使った料理を振る舞うレストランなど、土幌をPRする「仕掛け」がちりばめられている。

カフェ、レストラン 地元食材ふんだん

ランは旧店舗(昨年12月閉店)のメニューを受け継ぎ、しほろ牛のステーキやハンバーグなどを提供する。

ペッパー配置

一方、町は、道の駅に興味を持ってもらおうと、人型ロボット「Pepper」(ペッパー) for Bizをインフォメーションに配置する。海外観光客を意識し、町内16カ所の観光名所を4カ国語(日、英、中国、韓国)で案内する。2月に、観光案内が士幌小学校の児童を招いて現場見学会を開催。特命係長しほろコンシェルジュとして「辞令」を交付した。ペッパーは、しほろコンシェルジュの名に恥じぬよう精進してほしいと期待した。

工事最終盤に入り、2月中旬には工事を行う予定だ。田建設、三共舗道・ト・シンJV、十勝道路の3事業者と協同開発建設部が士幌小学校の児童を招いて現場見学会を開催。特命係長しほろコンシェルジュとして「辞令」を交付した。ペッパーは、しほろコンシェルジュの名に恥じぬよう精進してほしいと期待した。

このように、道の駅のあらゆる部分には、町民を巻き込む工夫が凝らされている。町産業振興課道の駅開設準備室の黒田治主任は、「土幌産の食材や工芸品などをふんだんに扱うことで土幌の魅力を発信したい。町民にとって自慢となり、観光客にもPRできる道の駅になってくれれば」と話している。(川野凌介)



小林町長(左)から特命係長として任命を受けたペッパー